丸亀城の見所

山下曲輪

山下の平地を山下曲輪と呼びます。

大手一の門・二の門（昭和32年国指定・重要文化財）

内堀の北側中央部に位置しています。城内側の櫓門を一の門、堀端の高麗門を二の門と呼びます。寛文10年（1670）頃の京極氏のときに、完成しました。一の門は、楼上に太鼓を置き、城下に刻を知らせたことから、太鼓門とも呼ばれています。

玄関先御門・番所・長屋（昭和38年県指定・有形文化財）

この門は、京極氏の屋敷の表門にあたり、形式は薬医門です。この門に接して番所・長屋があります。芝生広場や資料館は、かつては藩主の屋敷地でした。

丸亀市立資料館

開館時間／9時30分～16時30分
入 館 料／無料（企画展有料のとき有）
展示資料／歴史・考古・民俗資料
休 館 日／月曜日・祝日・資料整理期間・年末年始等

かぶと岩

この岩は岩頸と呼ばれ、火山の噴出口への通路部にある火成岩（安山岩）が浸食を受け、円柱状に露呈したものです。京極氏の庭園であったところにあり、神祠が建てられていました。

見返り坂

大手門から山上に向かう山道は見返り坂と呼ばれています。

石垣の美

三の丸北側の石垣は、丸亀城の石垣のなかで最も高く、20m以上の城壁が続きます。隅角部の石垣は算木積みされた美しい曲線美で、「扇の勾配」と呼ばれています。

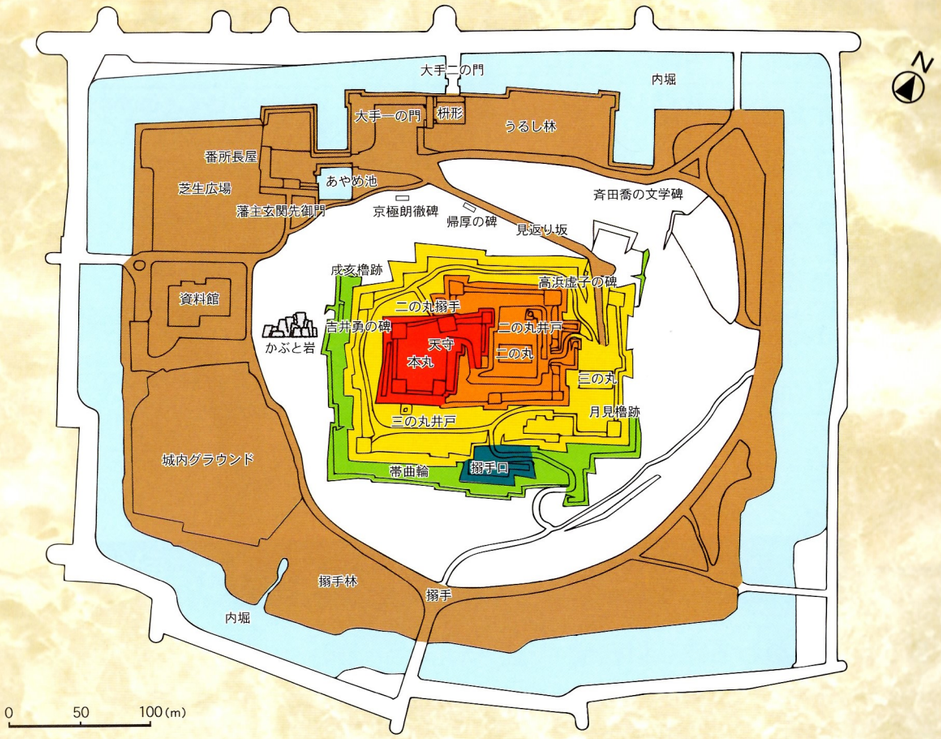
高浜虚子の句碑

「稲むしろあり
飯の山あり 昔今」
虚子

史跡丸亀城跡

（昭和28年国指定・史跡）

標高66mの亀山に築かれた平山城。別名亀山城とも呼ばれています。本丸・二の丸・三の丸・帯曲輪・山下曲輪があり、東西約540m・南北約460mの内堀内204,756㎡が史跡範囲です。「石の城」と形容されるその名のとおり、丸亀城は石垣の名城として全国的に有名です。



帯曲輪

三の丸下段を帯状に巡る曲輪です。

丸亀城の面白い石垣

●石垣の継ぎ足し
本丸、三の丸、帯曲輪の石垣にみられます。

●角石に線引き
角石をノミで線引きしています。美しい隅角ラインを作り忘れたのでしょうか。

搦手口

三の丸南側の搦手口は、山崎時代の大手であり、石垣を巧みに配し、城内でも一番堅固に作られた場所です。また、門跡の石垣は、加工された大きな石材を用いて、みごとに築かれています。

本丸

山上の最高所が本丸です。本丸には、天守の他に隅櫓・渡櫓・土塀が石垣上に巡っていました。礎石、排水路を一部復元しています。

丸亀城天守（昭和18年国指定・重要文化財）

3層3階の現存木造天守です。高さ約15m、1階北側には、石落や狭間があります。唐破風や千鳥破風で意匠を凝らしています。この天守は、四国内で最も古く万治3年(1660)に完成しました。日本一小さな現存木造天守です。

二の丸

山上で2番目に高い平場（曲輪）です。本丸同様石垣上に隅櫓や渡櫓がありました。

二の丸井戸

丸亀城で最高所にある井戸です。現在も水を湛え、城絵図によると深さは36間(約65m)あります。築城にかかわる悲しい伝説のある井戸です

三の丸

本丸・二の丸を巡る平場です。3カ所に隅櫓がありました。

戌亥櫓跡

戌亥櫓は、明治2年の藩邸（旧京極家屋敷）火災のときに焼失しました。火災で焼けた跡が今も石垣に残っています。

三の丸井戸

山崎時代の絵図にある井戸です。深さ31間と書かれていますが、現在は空井戸となっています。抜け穴伝説があります。

月見櫓跡

讃岐富士を正面に望みます。

吉井勇の歌碑

「人磨の歌かしこしとおもひつつ
海のかなたの沙弥島を見る」
勇

監修/丸亀市教育委員会
発行/丸亀市文化観光課

丸亀城年表

西暦・年号	記事
1532~55 天文年間	丸亀山、奈良氏の支配下にある。『南海通記』
1587 天正15	生駒親正、讃岐国に封ぜられる。
1597 慶長 2	生駒親正・一正父子丸亀城築城に着手する。
1602 慶長 7	生駒一正、丸亀城から高松城へ移り、丸亀城に城代を置く。
1615 元和 元	一国一城令で丸亀城廃城となる。
1640 寛永17	生駒氏所領没収、出羽国由利郡矢島に転封となる。 伊予大洲藩主加藤氏の預かりとなる。
1641 寛永18	天草郡、富岡城主山崎家治、西讃岐5万石余の領主となる。
1642 寛永19	山崎家治、生駒氏城跡地に城地決定。
1643 寛永20	山崎家治、当年の参勤交代を猶予され、幕府から銀300貫を得て、丸亀城を再築する。
1645 正保 2	幕府の命により丸亀城の絵図を提出する。(正保城絵図)
1649 慶安 2	幕府、山崎氏に丸亀城修復、普請等の指示を出す。
1656 明暦 2	高松藩の記録によると丸亀城中残らず焼失という。
1657 明暦 3	山崎氏絶家。大洲藩主加藤氏在番する。
1658 万治 元	京極高和、丸亀藩主となる。石高6万67石。
1660 万治 3	丸亀城天守完成する。
1670 寛文10	丸亀城大手門を南から北の現在地に移す。城内屋敷の建設。
1688 貞享 5	下金倉村の海浜、中洲へ京極家別館をつくる。(現中津万象園)
1694 元禄 7	高或3代藩主となり、庶兄高通に多度津1万石を分ける。
1768 明和 5	画家俳人与謝蕪村、富屋町妙法寺滞在。
1777 安永 6	天守鬼瓦銘。翌年、城内の普請完成。
1789 寛政 元	十返舎一九、丸亀に上陸し、善通寺・金毘羅参詣をする。
1806 文化 3	福島湛甫を築く。
1833 天保 4	新堀湛甫を築く。
1869 明治 2	京極朗徹、版籍を奉還する。城内屋敷出火し、焼失する。
1874 明治 7	陸軍省の所管となった丸亀城の番丁に丸亀兵営が完成する。
1876~77 明治9~10	この頃に城内の櫓、多聞が取り壊される。
1919 大正 8	丸亀市が、山上部を借地して公園として開設する。
1926 大正15	国有地の一部が市へ払い下げられる。
1943 昭和18	丸亀城天守国宝となる。
1945 昭和20	内堀以内の城跡が公園として一般開放される。
1948 昭和23	外堀の埋め立てが始まる。
1950 昭和25	天守の解体修理が完成する。天守重要文化財となる。
1953 昭和28	丸亀城跡が国指定史跡となる。
1957 昭和32	丸亀城大手門が重要文化財となる。
1963 昭和38	丸亀城玄関先御門等が県指定文化財となる。 大手門の修理が完成する。
1968 昭和43	玄関先御門等の修理が完成する。
1976~78 昭和51~53	第１次石垣修理工事。
1987 昭和62	天守化粧直し。
1990 平成 2	史跡丸亀城跡保存整備事業が始まる。
1991 平成 3	第2次石垣修理工事始まる。
1993~94 平成5~6	本丸・二の丸整備。
1997 平成 9	築城400年祭行われる。

城（藩）主替年表

領主・藩主	在職年月日	在職年数	備考
生駒雅楽頭親正	天正15.8～慶長 5.9 (1587)　(1600)	14	讃岐国の領主、高松城を居城とする。 丸亀城、築城開始。
同　讃岐守一正	慶長 6.5～慶長15.3 (1601)　(1610)	9	高松城に移り、丸亀城に城代を置く。
同　讃岐守正俊	慶長15.4～元和 7.6 (1610)　(1621)	12	一国一城令、丸亀城廃城。
同　壱岐守高俊	元和 7.7～寛永17.7 (1621)　(1640)	20	お家騒動により所領没収、出羽国矢島転封。
山崎甲斐守家治	寛永18.9～慶安 1.3 (1641)　(1648)	7	讃岐国二分。天草富岡から西讃岐へ転封。 生駒氏城跡地に丸亀城再築。
同　志摩守俊家	慶安 1.6～慶安4.10 (1648)　(1651)	4	外堀の修復。領内の治水事業。 満濃池のユルの修復工事。
同　虎之助治頼	慶安 5.2～明暦 3.3 (1652)　(1657)	6	8歳で没、嫡子なく絶家。 叔父豊治、備中成羽へ転封。
京極刑部少輔高和	明暦 4.2～寛文 2.9 (1658)　(1662)	5	播州龍野から転封。 天守完成。
同　備中守高豊	寛文2.12～元禄 7.5 (1662)　(1694)	32	大手門を現在地に移す。仁清の愛好家。 中津別館（現中津万象園）を造る。
同　若狭守高或	元禄 7.6～享保 9.6 (1694)　(1724)	31	庶兄高通に多度津1万石を分ける。
同　佐渡守高矩	享保 9.8～宝暦13.9 (1724)　(1763)	40	将軍吉宗の要請により家宝を上覧する。 塩屋別院を建立。
同　能登守高中	宝暦13.10～文化8.1 (1763)　(1811)	48	福島湛甫を築造。藩校正明館を創立。 中津御茶所の整備。
同　長門守高朗	文化 8.3～嘉永 3.7 (1811)　(1850)	40 隠居	名君。うちわ作りの奨励。新堀湛甫を築造。 『西讃府志』編纂。
同　佐渡守朗徹	嘉永 3.7～明治 2.6 (1850)　(1869)	20	版籍奉還。廃藩置県後の県知事。 『西讃府志』完成。

築城にまつわる伝説

■石垣にかかわる悲しい伝説

羽坂重三郎は、常に仕事をするときは裸になって一生懸命働くことから「裸重三」と呼ばれ、丸亀城の石垣を完成させた功労者です。

殿様は「さすがは重三の築いた石垣だけあって完璧だ。これでは空飛ぶ鳥以外にこの城壁を乗り越えるものはあるまい。」とご満悦でした。

ところが、重三郎は「私に尺余りの鉄棒を下されば、容易に登ることができます。」と言って、鉄棒を使いすいすいと城壁を登ってしまいました。

殿様は、重三郎を生かしておけば来敵に通じた場合、恐ろしいことになると考え、城内の井戸の底を重三郎に探らせて、その隙に石を投じて殺してしまいました。その伝説の井戸が二の丸井戸です。

■丸亀城人柱伝説

シトシトと雨の降る夕暮れ、一人の豆腐売りが作事場付近で豆腐を売りつつ通行していました。これを待ち構えた人夫たちは、豆腐売りを捕らえ、用意した穴に投げ込み、お城の人柱として、生き埋めにしてしまったのです。以来雨の降る夜は築城の犠牲となった豆腐売りの怨霊がトーフトーフと泣き続けるのだと言われています。

『丸亀城ものがたり』永田照雄より

石垣の見所

丸亀城の石垣は、主に築城技術が最も発達した山崎氏のときに築かれました。城内には打ち込みハギをはじめ、野面積み、切り込みハギなど様々な石積みが見られます。

また、石垣のなかには「△」や「田」など刻印と呼ばれる記号が見られます。石を割った矢穴の跡や石の表面をきれいに加工したノミの跡などもあります。

ゆっくりと丸亀城の石垣を観察しながら散策してみてはいかがでしょうか。

■野面積み

東南の山麓に延長約80m、また、内堀北側の土塀下の石垣にも一部見られます。

■打ち込みハギ

丸亀城石垣の大部分がこの積み方です。布積みとも呼ばれます。

■切り込みハギ

大手枡型の石垣・栃の木門跡（現搦手・旧大手）の石垣等、城の大事なところに築き、見せる石垣として用いられています。

丸亀城木図（平成4年市指定・有形文化財）

檜材で精巧に造られた江戸時代初期（寛文年間）の木型模型です。城の再建、改修をするときに絵図とともに幕府に提出されたものと言われています。全国でも、この丸亀城のものしか残っていません。

（丸亀市立資料館所蔵）